

南生協病院 2021年度ふりかえりと 2022年度方針

2022年6月

総代会 議案説明 南生協病院





2021年度経営のふりかえり

2021年11月1日、南生協病院45周年。

2021年11月12日、南医療生活協同組合60周年。

→ 6045事業へ十分に力を発揮できないまま。

新型コロナから脱局できず、第4波が襲ってきた。

ワクチン接種を開始したが、ワクチンが来ない。

… とにかく感染予防対策 … ワクチン確保

第6波により、院内感染も発生。





2021年度経営のふりかえり

①支出の削減

- ・派遣・委託業務の適正化は2020年より取り組む
→ 月平均500万円の削減。
- ・医薬品、医療材料の適正化（チェック強化）
→ 医薬品は2020年より徐々に成果あり。3月にも業者の一斉面談を実施。
→ 医療材料は2021年度に成果を反映したが、元々の原材料の値上がりあり。





2021年度経営のふりかえり

②患者数は減少したままで戻っていない。

新型コロナ感染は終わらない

入院患者数はあとひと踏ん張り

外来はほとんど戻らず

	2019年度 (平均)	2020年度 (平均)	2021年度 (平均)
1日入院患者数	279.7	259.8	267.1
1日外来患者数	763.4	624.3	650.6





2021年度経営のふりかえり

- ⑤ 患者数は少ないまま・・・ 予算達成もあと一步・・・。
収入対策と支出削減を同時に進めてきた。

経営指標	予算(千円)	実績(千円)	比率
入院収入	4,802,889	4,798,136	99.9
外来収入	2,017,163	1,950,526	96.7
医薬・材料費	1,340,000	1,369,400	102.2
人件費	3,424,945	3,336,986	97.4
経営利全	167,027	653,558	391.3

コロナ関連補助金の収入は33,000万円
コロナ陽性者受け入れに対する、保険点数の加算も大きい。
→ 黒字だったが内容的には喜べない。



2021年度 経営はどうだったのか

- 6045事業・・・十分発揮できず
- とにかく新型コロナとの戦いに終始。
- 第4波(5月) 第5波(8～9月) 第6波(2月)と 次々に・・・
- ワクチン接種体制も構築、現在も継続。
- その中でも、どうやって経営を立て直すのか
- 南生協病院が、今後も地域に役に立つ場所として活用されていけるのか。
- 外来利用の減少は新型コロナの影響だけなのか、かかりやすさはどうだったのか。





2022年度 スローガン

多世代・多文化 安心の拠点づくりでひろがる
地域だんらんまちづくり

～だれもが取り残されない地域社会をめざして、やれることから始めよう～

4つの 重点課題にチャレンジ

① 「組合員と職員の5つの協同行動」で地域だんらんまちづくりをすすめます。

② 健全経営と持続可能な事業運営をすすめます。

③ 「南医療生協組合員10万人達成」をめざす仲間ふやしをすすめます。

④ 組合員、職員、地域のひとを対象にした生活学習活動をすすめます。





2022年度 重点目標

- ① 持続可能な協同組合事業を進めるため、事業の健全化・安定化を図る。
- ② 医師確保を進め、総合的な地域医療を進める。
- ③ 2次医療機関にふさわしい医師・職員体制の強化を行い、断らない医療を進め急性期病院機能を充実させる。
- ④ 新型コロナ・インフルの予防活動をすすめ、ワクチン接種に取り組む。
- ⑤ 地域だんらん8指標をすすめ、組合員と職員の5つの協同行動をすすめる。
- ⑥ 南医療生協の総合的な地域医療を実践する研修医の育成をすすめる。





2022年度 南生協病院予算①

- 外来 患者数 655 名
日当点 1015点
- 入院 患者数 273 名 (稼働率88%)
日当点 4850点

- 診療会議にて検討をすすめ、
積み上げた予算となっています。

コロナ補助金は考えず、剰余4.1% 29,000万円の予算



2022年度 南生協病院予算②

	2021年度予算	2021年度実績	2022年度予算
入院収入	4,802,889	4,798,136	4,832,783
外来収入	2,017,163	1,950,526	1,952,263
健診その他	241,015	278,874	284,415
医療収入計	7,061,067	7,027,536	7,069,461





2022年度予算達成に向けて 1

- 新型コロナはなくなる。感染対策を維持しつつ経営の立て直し。
- 新型コロナに関連する点数加算……一部経過措置となっている。
- 2022点数改定はマイナス改定だったが、各診療会議では増点する点数をくまなく探した。
- 南生協病院の医師確保を全職員で対応。
 - ・外科・産婦人科・循環器・脳外科・腎内科・神経内科・整形外科





2022年度予算達成に向けて 2

- 外来のかかりやすさ、中でも初診・紹介患者様のかかりやすさ。
- 当日受診希望を必ずうけるには。
- 初診・紹介患者のご案内。
 - 連携強化・体制強化
- 健診判定によって患者さまに受診のご案内
- 連携医療機関、介護事業所への訪問





2022年度予算達成に向けて 3

- コスト削減の徹底。
 - 電気・ガス・水道 ……
 - 医材・薬剤・備品・機器・設備 ……
- タスクシェア・タスクシフト（業務の移管と共同化）
 - 重複・無駄も省く





南生協病院の近隣との連携

二次救急までを担う 一般急性期病院として
近隣の病院等と連携の前進

- 藤田医科大学病院・・・医師の派遣等
- 大同病院・・・医師の派遣、安全管理の協力
その他、情報共有など
- 相生山病院・・・安全管理の協力
- 近隣医療機関（連携登録医）
- 老健施設、福祉施設、介護事業所、 その他、連携施設





2022年度 コロナ過でも頼りにして
頂ける南生協病院をめざして

.....

各部門、各診療科にて、2022年度の
予算達成に向けた具体的な取り組みと
その実行方法を確認してください。



南医療生協の方針体系図

基本理念

みんながっけみんない
ひとりひとりのいのち輝くまちづくり

基本方針

1. 地域社会に関われた協同組合を目指し、平和と人権を大切にします。
2. 地域との協同で「わたしたち地域、まるごと健康づくり」に努めます。
3. 「いざ」とき安心の医療、介護・福祉、生活支援の充実を目指します。
4. 良い医療・介護の4つの指標がされている「不必要なことは行わない」「協同の意思」「社会水準の確保がされている」「地域社会にささえあい、たすけあいのネットワークがある」決定に基づいてはる
5. 地域との協同の医療・協同の介護・福祉、協同の生活支援を発展させ、「総合的な地域医療」を実現します。
6. 災害時には、医療・介護・福祉などへの救援活動や生活支援に貢献できるように努めます。
7. ぐらしがわかる医療生協人の育成と、働きがいのある職場づくりに努めます。
8. 健全な事業経営に努め、その成金を社会に還元するように努めます。
9. 以上を具体化するため「組合員と職員との5つの協同行動」を推進します。

事業ビジョン

- 今年のビジョン
- 長期ビジョン

南医療生協の総合的地域医療

2015年度第9次長期計画で掲げ、2016年度総代会議案で詳細に定直し、経営目標を明確。
南医療生協が考える、現在およびこれからの地域医療のあり方は、切れ目のない医療、介護、福祉、住宅、生活支援、保健予防を総合して提供でき、地域づくり、まちづくりと合わせて一体のものとしてとらえるもので、人も住んでいる地域も健康でありたいという医療観です。生活者自らがこれを事業化し運動化し、継続・発展させていくもの。行政や他の医療・介護事業所、広範な地域社会の人々と信頼関係を深め、連携し協力あって進化させていく(抜粋)

組合員と職員の協同行動指針

組合員と職員の5つの協同行動とは

1. 仲間(組合員)をよやして、垣、支、支につなぐ。
 2. 健康づくりを地域に広げる。
 3. 地域から信頼される医療、介護の地を築く。
 4. 「少子高齢化社会」「格差社会」「多文化」などに対応できる地域のセーフティネットづくりを推進させる。
 5. 地域で、ひとびとがふれあって、あたたかく、信頼が深まり合う学びと学びの場づくりを構築していく。
- この5つの歯車を回して、地に足をつけた南医療生協らしいまちづくりをすすめていく運動のことです。

各事業所予算・方針

班・支部・ブロック・地区の年間計画

『南医療生協の考える総合的な地域医療』の 具体化としての「協同の医療」、 「協同の介護・福祉」、「協同の生活支援」の概念図



南医療生協 近未来事業ビジョン(医療)

地域と協同ですすめる「地域でなおしさえる医療」

南医療生協は、伊勢湾沿岸被災地支援を住民と専門家が共同した経験から生まれました。地域の皆さんのその時の健康に暮らしたいという願いからこぼれたため、仲間(組合員)をよやし、進出費をあつめ、協同の事業所づくりをすすめて、地域の皆さんの要求を利用者(組合員)と専門家が共同して、ひとつひとつ解決してきました。少子高齢化さらに新型コロナウイルス感染症拡大時代が変化しています。南医療生協は、「病院で(病気を)なおす医療」から、ひとりひとりの自立したぐらしをささえる「地域で(病気だけでなくぐらしも)なおしさえる総合的な地域医療」へ、さらに進化・発展してゆきます。

1. 「ことわらない医療」「かかりやすい医療」をすすめます

- 1) 「ことわらない医療」「かかりやすい医療」を充実させるために、まずは受け止める医療をめざします。
 - ①学会や研究会への関わりを深め、南医療生協の医療の中身を対外的に発信します。
 - ②大学病院との信頼関係を築いていながら、連携、協力体制を強化します。
 - ③働きやすい環境づくりを自らすすめていきます。
 - ④「みな1000」運動(みんなで1000人職員紹介運動)を職員、組合員ですすめます。
- 2) 医師、看護師、事務などすべての職員が、外来、入院、退院時に患者さん、家族からの診療やぐらしなどの「お困りごと」が出されたときは、丁寧な対応をします。
- 3) 初期・後期研修医のフルタイム確保と同時に、研修医の研修環境を地域と一緒に充実させます。
- 4) 「ことわらない医療」「かかりやすい医療」をすすめるために、21年度中に確保したい医師目標数

総合内科	3人	整形外科	1人	脳神経外科 or 神経内科	1人	内科専攻医	2人
在宅診療専任	2人	かなめ病院	1人	診療所	1人		

5) 「ことわらない医療」「かかりやすい医療」をすすめるために、2025年度までに以下の医師体制をめざします。

南医療生協院	51.5人→70人
内科	17.5人→22人 (総合:4→5 循環器:3→3 消化器:4→4 呼吸器:2.5→3 腎:1→1 神経:0→1 DM・代謝:2→3 救急:1→2)
外科	8人→8人 (整形外科:1人→1人 産婦人科:3人→3人 小児科:2人→2人 泌尿器科:1人→2人 眼科:1人→2人)
皮膚科	2人→2人 (病理:1人→1人 麻酔科:2人→2人 放射線科:1人→1人 初期・後期研修医:12人→20人)

そのほか病院、診療所 9.5人→16人

かなめ病院・星崎診療所・たから診療所	5人→6人
富士山診療所・桃山診療所	2.5人→3人
在宅診療所専任	1人→5人
メンタルクリニック	1人→2人

2. 本人やご家族の不安や要望に応える在宅医療の拡充をすすめます

- 1) 在宅専門医を現在の1人からすみやかに5人体制にします。
- 2) 訪問看護ステーションの充実をすすめ、医療従事者の高い方や小児への支援などに対応していきます。
- 3) チーム医療で在宅医療の充実化をすすめます。

3. 南医療生協の総合的な地域医療の実現をすすめます

- 1) 大学病院や他の病院、開業医など他の医療・介護事業所との連携を強化します。
- 2) ひとりひとりの自立したぐらしをささえる医療をめざします。
- 3) 信頼ふやしをしつかりすすめて、ふやした信頼を誰や支部につなげます。地域の中に「おたがいさますロシア」や「おたがいさまの家」を立ち上げ、生活支援に役立つセーフティネットをひろげます。
- 4) 南医療生協の健康・健康チェック・健康づくり(ケンケンサイクル)をひろげ、地域まるごと健康づくりをめざします。

4. 歯科医療の充実をすすめます

- 1) なんでも相談できて、インプラント・矯正歯科など、小児から大人まで歯科医療全般を担える医師集団をめざします。
- 2) 予防歯科の取り組みと歯周病診療を拡大します。
- 3) 在宅・訪問歯科体制をつくり、歯科・歯科・介護の連携を強化し、広がる在宅ニーズに応えます。
- 4) 品質が高く満足度の高い自費治療を、患者様の選択に基づきひろめます。
- 5) 以上の取り組みを組合員と協同ですすめるために、事業所利用や健康づくりをすすめる「サポーター」をひろげます。

5. 自然災害や感染症などの発生に備え、災害に強い地域づくりに貢献します

- 1) 自然災害下でも原則、事業を継続させます。
- 2) 被災組合員、被災職員をはじめ、被災者・被災地支援を行います。
- 3) 広報活動、記録活動を行います。





南医療生協 近未来 医療ビジョン

地域と協同ですすめる「地域でなおしささえる医療」

「ことわらない医療」「かかりやすい医療」をすすめます。

- まずは受け止める医療をめざします。
- 診療やくらしの「お困りごと」を丁寧な対応をします。
- 研修医の研修環境を地域と一緒に充実させます。
- 医師体制確保をすすめます。

在宅医療の拡充をすすめます。

総合的な地域医療の実践をすすめます。

歯科医療の充実をすすめます。

災害に強い地域づくりに貢献します。

